



luxembourg
for business

『美しき偉大な小国である』(建部 和仁 前駐ルクセンブルク日本国大使)と称されるルクセンブルク。人口50万人の小国でありながら、欧州連合(EU)の中心国としての役割を果たし、国民一人当たりの国内総生産(GDP)は、世界首位に君臨する。国際金融センターとして広く知られている一方、最近では欧州の事業統括拠点としてのルクセンブルクのビジネス環境も注目されている。

5月17日に都内で開催された「ルクセンブルク、グローバル戦略の切り札」と題したルクセンブルク経済通商省主催のセミナーには、120人以上のビジネス関係者が集まった。セミナーの要旨を紙上で再現する。

ルクセンブルクを グローバル戦略の切り札に

開会挨拶



ギョーム ルクセンブルク大公国皇太子殿下

欧州投資の玄関口に

日本とルクセンブルクの経済関係を強化するため初めて来日でき、大変うれしく思います。

3月11日に日本を襲った甚大な震災と津波は、リアルタイムの映像で伝えられ、全世界が言葉を失いました。自然の猛威により何万人もの人々が家族を失い、家を、仕事を失いました。尊い命を失われた犠牲者のご冥福をお祈りいたします。

『夜明け前が一番暗い』と言います。日本人が規律を保ち強靱な精神と勇気を持って、大きな苦しみ乗り越えようとしています。無気力になることなく、お亡くなりになった人たちの魂を弔うために努力されています。『日出る国』(日本)なのですから、夜明けがくることを確信しています。

セミナーは半年前から計画していました。ルクセンブルクと日本には、大公家と皇室の関係をはじめ長く親しい歴史があります。困った時こそ真の友人として連帯と友情を示すことが大切と信じ、セミナーを実行すべきだと考えました。

日本がグローバル経済に参画し、貿易立国として活性化していくことが(東日本大震災からの)日本の復興や経済成長につながります。日本の将来のためにも世界各国と資本やサービス、アイデアなどで交流することが必要です。このため日本が欧州連合(EU)に求めている経済連携協定(EPA)をルクセンブルクは全面支持します。

ルクセンブルクは日本の投資家の皆さんを友情ある暖かい心で歓迎します。ルクセンブルクに投資する皆さんは、ルクセンブルクを第二の故郷だと感じることができるでしょう。EUの中心に位置するルクセンブルクはEUへの投資の“玄関口”として、また日本の皆さんの“真の忠実なパートナー”として今後もあり続けたいと思います。



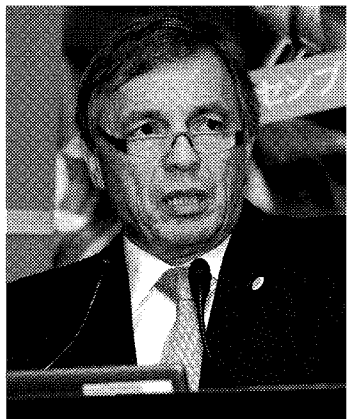
満席の会場風景

これからのグローバル経済と 日-ルク パートナースhip

ルクセンブルク経済通商大臣
ジャノ・クレツケ氏

日本の東日本大震災と津波は、世界に大きな影響を与えた。欧州各国では原子力政策推進の立場を見直すべきだという世論が高まっている。

私も将来のエネルギー政策のスピーチを先日行い、再生可能エネルギーの比率を2020年までに現行の1.7%から4%へ引き上げる目標を話した。小国であるルクセンブルクが公約を達成することは相当な努力が必要だ。



相互に協力し、
ビジネス
チャンスを

この20年間に起きたグローバル化の相当部分は、エネルギー価格が安いことから生まれたものだ。だが、今後は、新興国の経済成長や中東など地政学上の不安要因を抱え、エネルギー価格は上昇し続けるだろう。安い労賃や貨物輸送を利用した、例えば、ベトナムで靴を1足当たり3ドル以下で作り、ヨーロッパで20ドルで売るという大陸間のビジネスモデルは長続きしない。私の予測では、多くの企業は再び消費地に近い工場での製造にシフトする。

EUは4億5,000万人という世界で主要な消費市場でもあるが、外国からの工業分野の投資を再び歓迎するという傾向が復活するのではないと思う。

ルクセンブルクは欧州の中心にある。金融や物流など発達した高度なインフラがある。質の高い、多言語を操る労働力を持つ。ルクセンブルクはグローバル化する企業経営の切り札となる拠点だ。

ルクセンブルクはまた再生可能エネルギーを含めエネルギーの効率化のためのノウハウや投資を必要としている。エネルギー効率や環境技術の分野で革新的な企業においては直接的なチャンスがあるはずだ。日本とルクセンブルクは協力して、こうした必要性の中からビジネスチャンスを創出できる。

日本は過去数十年間、経済成長の牽引車であった。いま、中国が世界の注目を集め、中国の工業発展を日本の投資や技術が支えた事実を忘れがちだが、日本の企業はイノベーションや研究の分野で世界のリーダーであり続ける。成熟経済においては、最先端の技術、サービスに焦点を当てなければならない。日本とルクセンブルクは相互の利益となる協力可能分野がたくさんある。両国間の技術革新、連携、友情への献身を通じ将来を築きましょう。

ルクセンブルク 事業環境の優位性

野村総合研究所 上級コンサルタント
森 健氏

日本企業の欧州事業は07年から売上高が減少傾向にある。アンケートによると、事業拡大に向けて欧州を含む地域統括の機能強化が多くの日本企業で課題になっている。

ルクセンブルクは金融に強いイメージを持たれている。事実、産業構造は金融と不動産で5割弱を占める。クロスボーダーの投資ファンドの組成はルクセンブルクが世界最大の75%を占める。M&Aをサポートする会計や法律事務所といったサービスも充実している。

5つの特色を
組み合わせた
競争優位性



こうした高い金融集積だけではなく、持ち株会社や統括会社により利な税制、質の高い人材、西欧の中心に位置する立地、光ファイバーなど整備されたITインフラ。この5つの特色の組み合わせにルクセンブルクの競争優位性がある。欧州市場への本格参入を考えている初級者から上級者まで、取り組み状況に応じてルクセンブルクを活用できる。

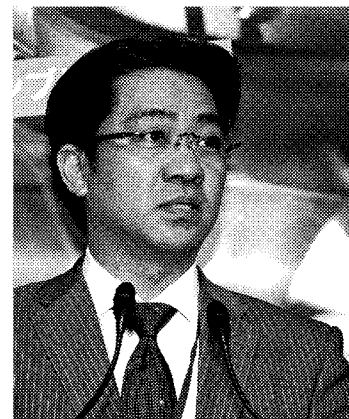
欧州事業の初級者ははじめからルクセンブルク拠点を整備することでM&Aをてこに市場開拓を追求する。欧州事業の合理化を考えている中級者は、統括本社をルクセンブルクに移転し、税制面での便益を得たり、グループ金融機能や物流機能を集約したりする。欧州事業のリスク管理強化を考えている上級者はデータバックアップ拠点、あるいは物流機能のバックアップ拠点としてのルクセンブルクを活用するといった進出パターンが考えられる。「百聞は一見にしかず」。ルクセンブルクへ行って見てください。

楽天の事業展開および ルクセンブルク欧州統括拠点の 位置づけについて

楽天株式会社 常務執行役員
百野 研太郎氏

楽天は08年2月にルクセンブルクに欧州の事業統括会社として楽天ヨーロッパの設立を発表し、10年に楽天ヨーロッパを通じてフランス最大のEC(電子商取引)サイトを運営するプライスミニスターを買収、海外展開をますます加速させている。

海外展開は国内と同じ方針で、中小企業を力づけるECサイト「楽天市場」を中核に楽天トラベル、金融クレジットカードなどのサービスを広げていく計画だ。海外は現在の6拠点から数年以内に27カ国・地域に広げる準備をしている。いわば、全方位型の海外進出をする。インターネットは“ドッグイヤー”と呼ばれるように技術革新が非常に速い。早い段階で進出することが重要だ。現地で有能な人材を採用し、現地で戦略を展開する。



政府の強力な
サポートが
進出の決め手に

ではなぜルクセンブルクか。政府の強力なサポートと、欧州拠点として最適な技術環境やビジネス環境が整っているからだ。ルクセンブルクは欧州の中心に位置するため、主要国にもアクセスが便利だし、安心できるデータセンターもある。(アマゾンやスカイプなど)他のIT企業も多数あるため、多言語・多文化の対応のみならず、ITに精通した人材を採用しやすい。政府のサポートは、補助金や税制面だけではない。海外で楽天というまだ知名度が限られる中で、ルクセンブルクの政府関係者に親身に対等に相談に乗ってもらえたことも大きなポイントとなっている。

ルクセンブルクとは...

ルクセンブルクはグローバル化する企業経営の切り札となる拠点です。ヨーロッパ進出に際し多様な各国市場を束ねる最適の企業構造や運営方法を模索する日本企業を支援します。

- フランス、ドイツ、ベルギーに囲まれた小国
(人口約50万人、面積は神奈川県ほど)
- ベネルクス三国の1つで自由貿易の伝統を持つ
- 鉄鋼産業(アルセロールミタル)
ロジスティクス(カーゴルクス)
情報通信(RTL、SES、スカイプ)など
国際競争力のあるセクターを地場企業が牽引

- EUの本拠地の1つ。欧州政治経済の要所
- 外国人比率約40%、
外資系企業を歓迎する国際的環境
- 4ヶ国語を操る国民
ルクセンブルク語、フランス語、ドイツ語、英語
- ヨーロッパ主要都市から
約1時間のフライト圏内、パリからTGVで約2時間



ルクセンブルクの投資についてのお問い合わせ

ルクセンブルク経済通商省 東京貿易投資事務所
〒102-0081 東京都千代田区四番町8-9 ルクセンブルグハウス1F(ルクセンブルク大使館内)

tel 03-3265-9621

web www.investinluxembourg.jp

主催:ルクセンブルク経済通商省 / 共催:在日ベルギー・ルクセンブルク商工会議所 / 後援:在日ルクセンブルク大公国大使館、東京商工会議所、独立行政法人日本貿易振興機構、ベルギー・ルクセンブルク市場協議会、一般財団法人貿易研修センター / 協力:日刊工業新聞社